

【事例発表】

長岡市の地域防災計画と防災対策の取組

平成 26 年 1 月 16 日（木曜日）

長岡市危機管理防災本部

1 長岡市について

1-1 長岡市の位置・規模・地形

長岡市の位置



<人口・世帯数>

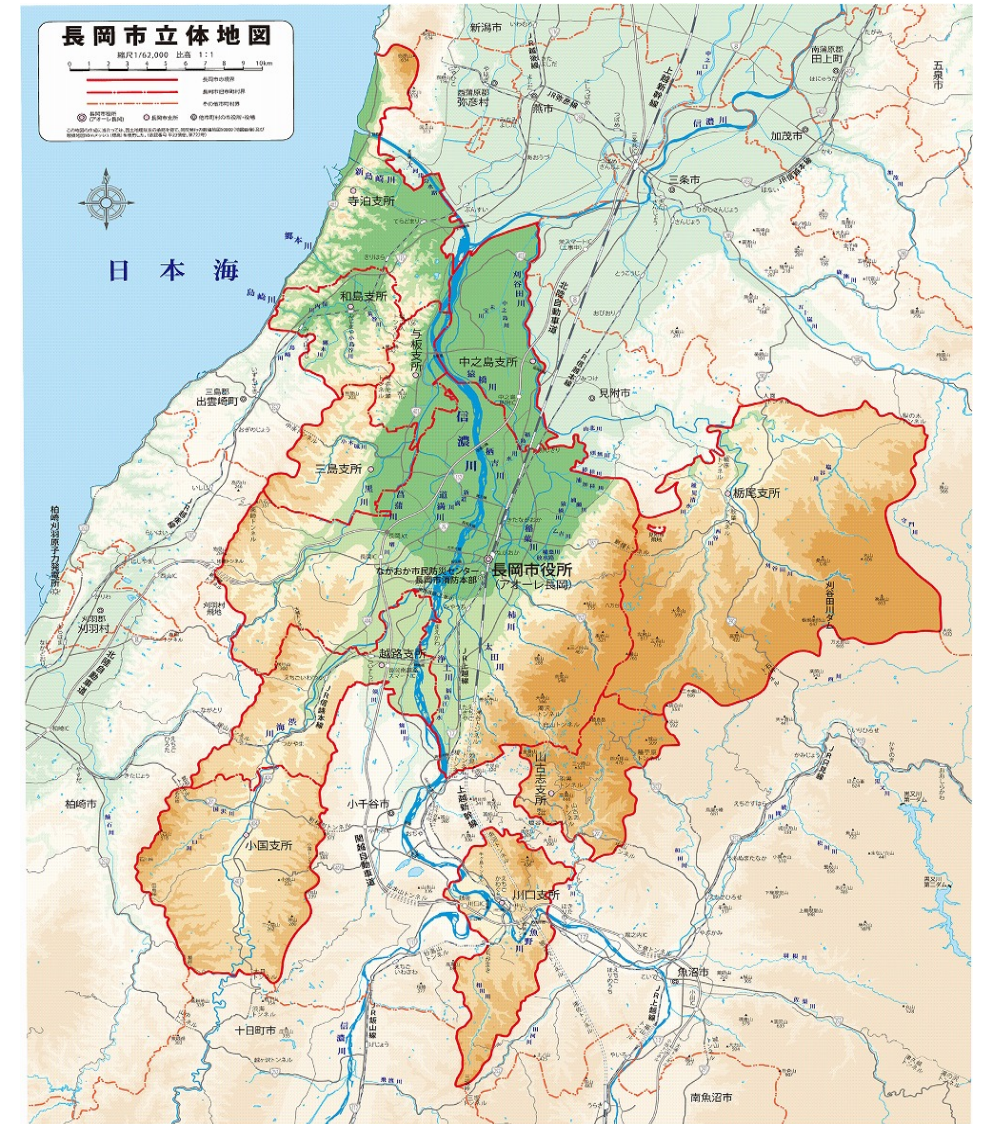
- 平成26年1月1日現在
人口 280,892人 (男137,010、女143,882)
合併前の1.45倍
世帯数 103,674世帯

<地形など>

- 面積890.91平方km (東西42.6km、南北59.3km)
合併前の3.4倍
- 日本海から守門岳まで、自然に富む。
- 信濃川をはじめ、数多くの河川がある。
- 冬の降雪では、東部山沿いで4m近い積雪も。

<平成の市町村合併の経過>

- 平成17年4月1日に4町1村を編入
(中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町)
- 平成18年1月1日に1市2町1村を編入
(和島村、寺泊町、栃尾市、与板町)
- 平成22年3月31日に1町を編入 (川口町)



1-2 長岡市における最近の災害発生状況

年度	市の動き		災害の発生状況 (●は災害救助法適用、●は新潟県災害救助条例適用)		
			地震	水害・土砂災害	雪害
平成16年度			10.23 ●新潟県中越地震(中越大震災)	7.13 ●平成16年7月新潟・福島豪雨	平成17年大雪
平成17年度	4.1 1.1	4町1村を編入 1市2町1村を編入			●平成18年豪雪
平成18年度					
平成19年度			7.16 ●新潟県中越沖地震		
平成20年度					
平成21年度	3.31	1町を編入			
平成22年度			(3.11 東日本大震災発生)		●平成23年豪雪
平成23年度				7.28 ●平成23年7月新潟・福島豪雨	●平成24年豪雪
平成24年度	4.1	市役所移転 (「アオーレ長岡」オープン)			●平成25年豪雪
平成25年度				7.29 ●7・8月豪雨災害 ※土砂災害	

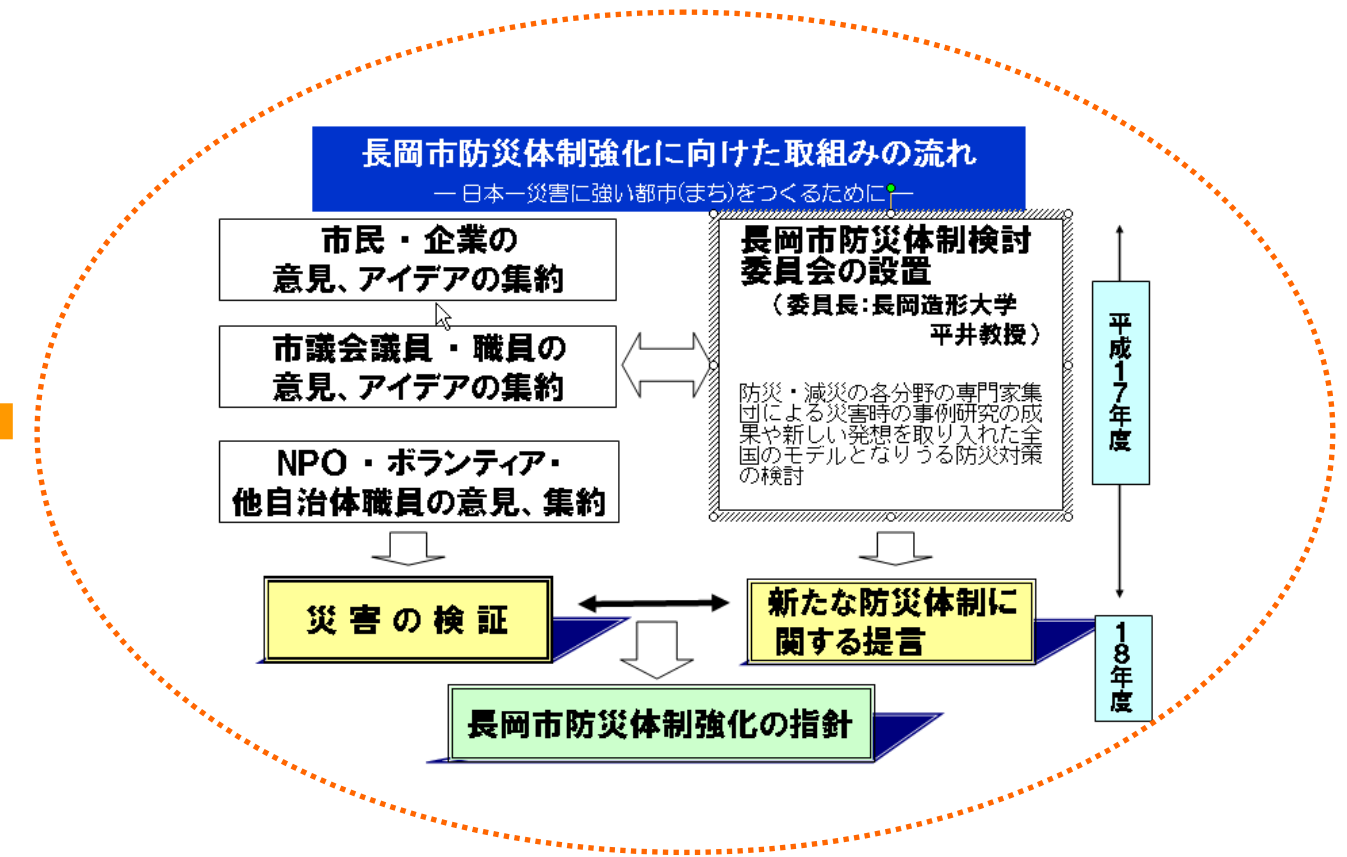
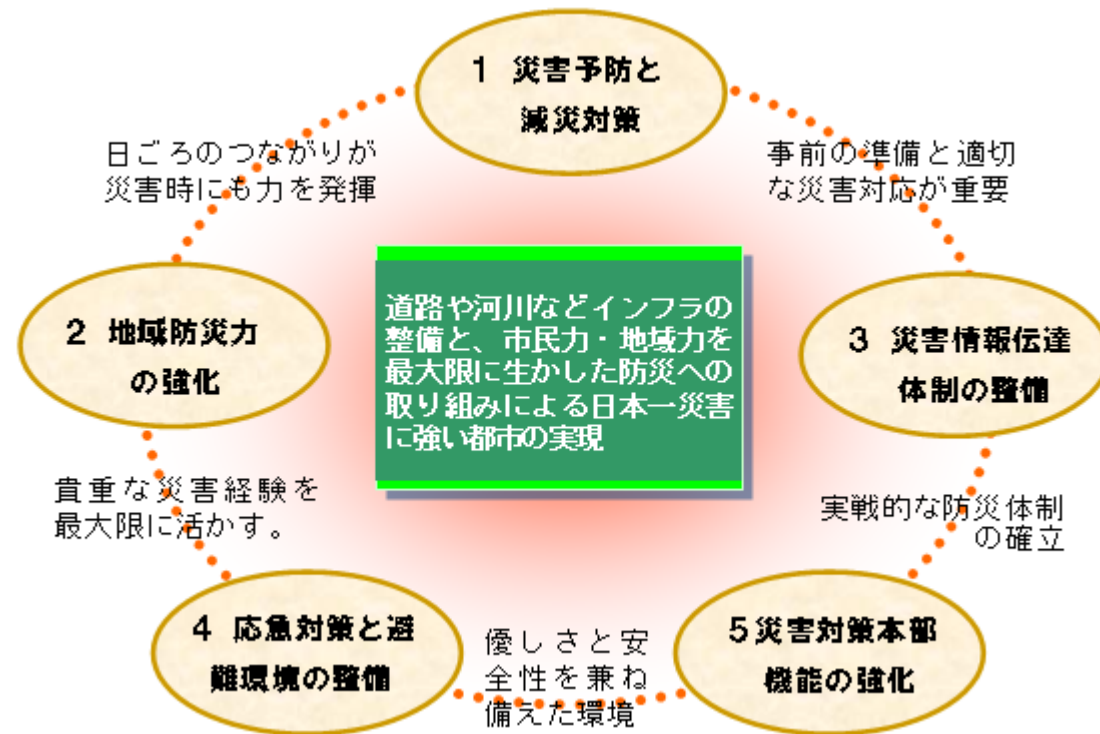
長岡市の主な被害状況

- H16.7.3 新潟・福島豪雨 死者4人、全壊65棟、半壊369棟、床上床下浸水2,878棟
 - H16.10.23 新潟県中越地震 最大震度7 死者28人、負傷者2,438人 全壊2,197棟、大規模半壊・半壊8.5千棟 一部損壊5.9万棟
 - H19.7.19 新潟県中越沖地震 最大震度6強 負傷者243人、全壊10棟、大規模半壊・半壊460棟、一部損壊7千棟
 - H23.7.30 新潟・福島豪雨 負傷者2人、全壊～半壊35棟、床上床下浸水2.2千棟
 - H25.7.30～8.1 豪雨 死者1人、負傷者4人、全壊～半壊40棟、床上床下浸水1.3千棟
- 【備考】
アオーレ長岡とは、「アリーナ」、「ナカドマ(屋根付き広場)」そして「市役所」が一体となった全国初の複合型施設

2 中越大震災などの経験を生かした取り組み

2-1 長岡市防災体制強化の指針

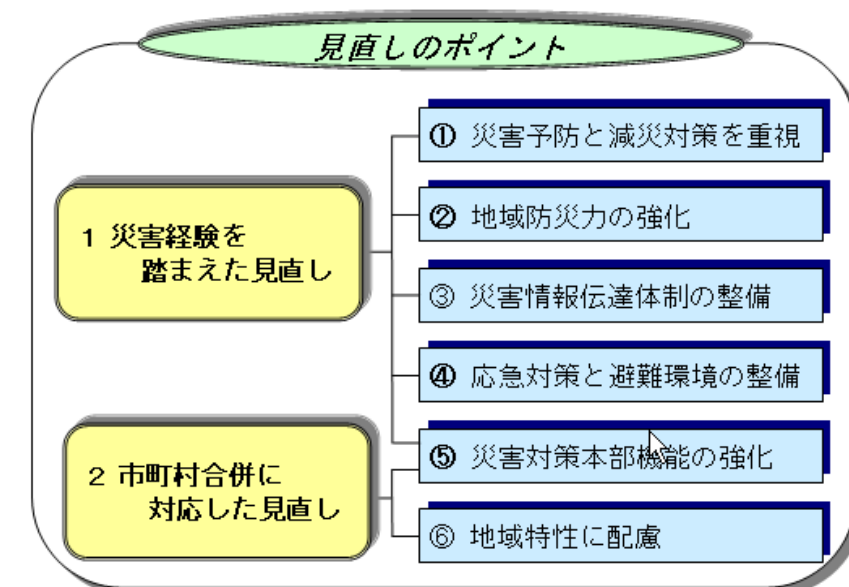
- 7.13水害や中越大震災を受け、H17.10に防災の専門家で構成する「長岡市防災体制検討委員会」を設置
- H18.2に同委員会から「新たな防災体制の整備に関する提言」を受ける。
- H18年度の長岡市地域防災計画の見直しで、提言を踏まえた「長岡市防災体制強化の指針」をまとめる。



2-2 指針を受けた主な取り組み


- 1 地域防災計画の見直し
- 2 各種災害対応マニュアルの作成
- 3 市民向け防災パンフレットの作成
- 4 災害情報伝達体制の整備
- 5 避難所環境の整備
- 6 中越市民防災安全大学の開講

2-2-1 地域防災計画の見直し




※ 地域防災計画 <http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/kakusvu/chuiki-bousai.html>

2-2-3 市民向け防災パンフレットの作成



市民防災のしおり

- 被災経験から得た実践的な対応策
- 家庭や地域で災害に備えるため、各種災害に応じた役立つ知識、対応
- 自主防災会の育成、強化
- H18.11、全世帯及び各町内会長等に配布



自主防災会結成と活動の手引き

- 知る
- つくる
- 取り組む
- 工夫する

7. 13水害の教訓を活かして

洪水避難地図 (洪水ハザードマップ)


- 市内を4分冊、H20.4に全世帯に配布
- 信濃川を含む13河川を対象に作成
- 視聴覚障害者及び外国人(3か国)用を、H20.7に配布

土砂災害ハザードマップ


- 市内7地区を対象に、H19~H21に配布

津波ハザードマップ

- 寺泊地域を対象に、H21.6に全世帯に配布



長岡市洪水避難地図



長岡市津波避難地図

2-2-4 特色ある情報伝達体制の整備

(1) 緊急告知FMラジオの無償貸与及び緊急割り込み放送(FMながおか)



緊急告知FMラジオ

- 避難勧告等の緊急放送時には、自動的に電源が入り、最大音量で長岡市役所等から直接放送して市民に対して災害情報を提供
 - ・町内会(3台)、災害時要援護者(開示者)、民生・児童委員、コミュニティセンター等に貸与
 - ・1台約8,500円、H18~H24 約10,000台
- 屋外拡声器の整備
 - ・FMながおか⇒25基、
 - ・防災行政無線(同報系)⇒148基(7支所地域)

(2) 衛星携帯電話の配備

- ・土砂災害、豪雪等による孤立集落対策等のため、支所及び集落等に配備
 - H18-16台(本庁、支所等)、H19-37台(集落)、H22-5台(集落) 計58台
- ・地区防災センター(避難所)との情報連絡手段の確保(市役所)
 - H23-17台(機器の維持管理上、直近のコミセンに配置)

2-2-5 避難所環境の整備

既存の小・中学校 87校で、H17~19年度の3か年計画で整備



①出入口にスロープ設置



③体育館にCATV・電話・LANの端末設置



②トイレの洋式化



④受水槽に蛇口を設置



⑤LPガスの接続口を設置

改築学校施設対策(2校整備済み)



東中学校で新たな試み
 -学校を避難所として使いやすく-
 (災害を想定して設計された先進的な校舎)



屋根付き広場 (H21年1月 授業開始)

- 1 体育館と校舎の間に屋根付き広場 ⇒ 雨や雪でも、支援物資の搬入、ケガ人の搬送や仮設トイレの設置等が可能 (約360㎡)
- 2 体育館の隣に給食室 ⇒ 炊き出し用の食事を迅速に提供する場所を整備
- 3 避難エリアと教育エリアを分離 ⇒ 避難者と生徒がお互いに活動しやすい。

2-2-6 中越市民防災安全大学の開講

主催(運営) 公益社団法人 中越防災安全推進機構
共催 長岡市(担当:危機管理防災本部) (H25負担金 280万円)

- 地域の防災リーダーの育成
- 中越大震災の貴重な体験や教訓を後世につなぐ



平成18年度に開講

- 1 開講期間 7月～11月の5か月間に26講座
- 2 対象者 高校生以上の長岡市民等、定員50人
- 3 受講料 1人15,000円(学生7,500円)

- 「中越市民防災安全士」の認定
認定後、防災士の受験が可能
- 市民安全ネットワークの形成
1年間で50人が卒業すれば、10年間で500人
→平成25年度実施後現在 **386名卒業**
- 中越市民防災安全士会を設立
上記卒業生で構成(任意)
地域に根ざした防災活動を展開



2-2-7 長岡防災シビックコア地区の整備

長岡防災シビックコア地区の概要



【参考】ながおか市民防災センターの活用事例

救援物資の発送状況



救援物資の受付



1階 屋根付き広場
東北の被災地へ輸送



救援物資の仕分け、一時集積



【メモ】

- 長岡市の自主防災組織の結成率 (平成25年12月1日現在)
 - ・町内会 (自治組織) 949 団体
 - ・自主防災会 (自主防災組織) 809 団体

自主防災会結成率 91.9%
(自主防災会結成世帯数94,656 ÷ 町内会名簿全世帯数102,949)
- 災害対策本部機能の強化 (アオーレ長岡 東棟4階、特別職と同一フロア)
 - ・災害対策本部会議室・危機管理防災本部執務室の強化
 - 常設 (執務室と隣接)、耐震性、停電対応、ディスプレイの充実など
 - ・映像情報の充実
 - 定点カメラによる河川・道路等のリアルタイムな状況を監視)



災害対策本部会議室



2011年7月30日 8時40分
長岡市河川カメラ監視システム

3 直近の取組事例

○「ながおか土砂災害Dメール」の構築 (土砂災害対応の強化)

ポイント

これまでの不安…

- 市域内の土砂災害危険箇所は約 1,500 箇所
- 避難情報を出すタイミング、決断が難しい。
 - 「土砂災害警戒情報等の情報」と「実際に発生する頻度」の実態が…
 - 特定の地域が対象となる…

↓
新たな情報伝達が必要 (H25 当初予算化)

実際に…

- 平成 25 年の 7・8 月豪雨で土砂災害が発生
- 深夜の時間帯での避難行動は危険を伴う。
- 深夜の時間帯での情報伝達は難しい。

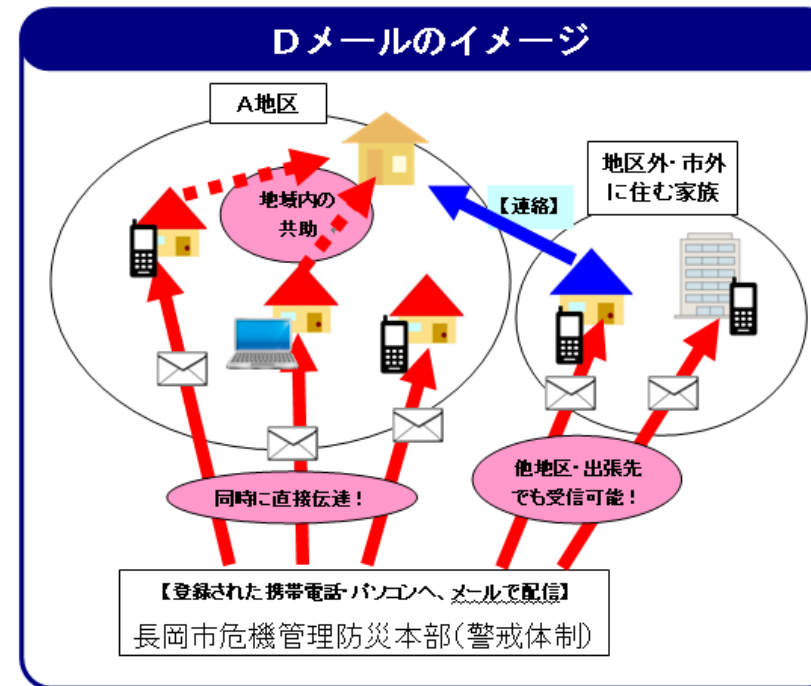


これから…

- 新たな情報伝達として、土砂災害に特化した「ながおか土砂災害Dメール」を構築する。
 - 25.12から地元説明会を順次開始
 - H26梅雨前に完了・全市的な本格運用開始

地元説明会での重要点

- 身近な土砂災害危険箇所を再認識してもらう。
- 市が伝達する情報のもつ意味を理解してもらう。
- 地域の知恵を最大に活かしてもらう。



【配信内容】	【特色】	【良くなる点】
<ul style="list-style-type: none"> ● 気象に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の気象見込み情報 (急激な降雨情報など) ・大雨警報(土砂災害) ・土砂災害警戒情報など ● 避難に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・身を守る呼びかけ情報 (土砂崩れの発見など) ・避難準備情報 ・避難勧告 ・避難指示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の地域・登録者へ情報を直接伝達！これまでよりも早めの情報提供も可能！ ● 必要な方(登録者)へ、一斉に伝達が可能！ ● 地区外の家族や、出張先でも受信可能！ 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの電話連絡に比べて、圧倒的に迅速な伝達ができる。 ● 必要な方(登録者)に、確実に伝達できる。 ● 高齢者世帯等においても、地区外にいる家族から連絡・支援が受けられる。 ● 夜間においても、エリアメールと異なり登録者のみの伝達なので、混乱を避けられる。



4 地域防災計画の改訂

